

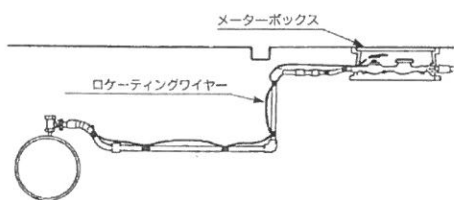
# ロケーティングワイヤー施工方法

## 1 先端部の処理方法



ワイヤーの先端部には必ず指定のキャップをはめ込み、さらにビニルテープでテーピングします。

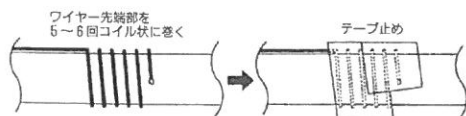
## 2 管への固定方法



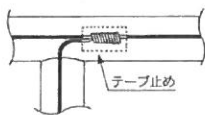
ワイヤーをパイプに緩みを持たせて配線し、約2m間隔でビニルテープで固定します。

分岐部分はワイヤーの先端処理後、分水栓金具より1cm~2cm離してワイヤーをパイプに5~6回巻き付け、ビニルテープで固定します。  
(分水栓の位置が探知しやすくなります。)

### ● 管上の場合

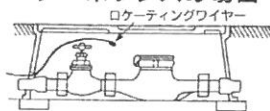


管上に付設する場合は、ワイヤーの先端部を5~6回コイル状に巻き、コイル部分を管部にビニルテープでテーピングします。  
(管の末端の位置が探知しやすくなります。)



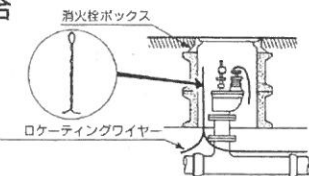
ワイヤーをT字型にジョイントする場合は、ジョイントするワイヤーの先端処理後、15cm程本管側のワイヤーにすきまなくネジって巻き付け、ビニルテープでテーピングします。

### ● メーターボックスの場合



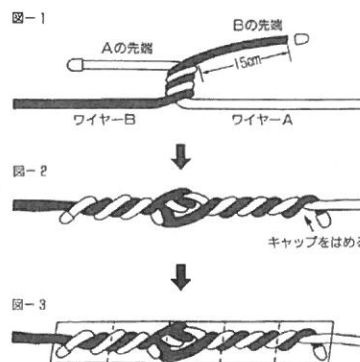
メーターボックス内は先端処理後、5cm折り返して先端処理部をビニルテープでテーピングして下さい。  
(探知器のコードが連結しやすくなります。)

### ● 消火栓の場合



消火栓・バルブ等のボックスは、ワイヤーを切断せずにネジって左図のように折り返し部を輪状にし、地上より手の届く範囲まで立ち上げて下さい。  
(探知器のコードが連結しやすくなります。)

## 3 接続方法



ABのワイヤーを見分けるため、まず片側だけキャップをはめ込み、ワイヤーAとワイヤーBをネジリ合わせます。結び目をネジってAの先端はB側のワイヤーに、Bの先端はA側のワイヤーに向けます。(図-1)

〈ポイント：1〉  
ネジリ合わせの部分は、できるだけ強固に数回ネジリ合わせて下さい。

先端AをBのワイヤーに、また先端BをAのワイヤーに、それぞれ隙間なく15cm程強く巻きつけて下さい。(図-2)  
先端Bへキャップをはめ込みその後、テープでテーピングして下さい。(図-3)

〈ポイント：2〉  
必ず接続する方のワイヤー側へ巻きつけて下さい。

## YSロケーティングワイヤーの探知原理(直接法)

